

常光寺々報

2020年7月

お盆の法要

七月十二日(日)十時半～十一時半 住職

一時半～二時半 住職

七月十三日(月)十時半～十一時半 前住職

旧盆法座

八月十五日(土)十時半～十一時半 住職

自粛規制が解除されたとはいえ、まだまだ不安が残ります。その中の法要ですので、時間を短くして勤めさせていただきます。

密集を避けるために三座に分けてお勤めしますが、いずれかのお座におまいりください。

空気循環のため、本堂は扉を開け放ち、冷房は扇風機と併せていただきます。

感染予防のためお念珠とお経本は置いてありません。マスクも各自着用をお願いします。

住職就任

去る一月二十九日、ご本山にて住職補任式を受式し、ご門主より許状をいただいでまいりました。

これによって浄土真宗本願寺派法燈山常光寺の住職は第二十九代鶴山信行より第三十代鶴山亮慧へ継職させていただくことになりました。

五月に予定しておりました住職継職法要は残念ながら延期せざるを得ませんでした。これからの法務は私亮慧が住職として務めさせていただきます。

尚、正式なお披露目はコロナの状況が終息したのちに、改めてご挨拶をさせていただきます。まだまだ至らぬ身で継職をさせていただきますが、どうぞ、皆様にはご指導ご鞭撻を

よろしくお願いいたします。

諸行無常の世界

当たり前だと思っていた日常。変わることはないと思っていた生活。大丈夫だと思っていた健康。

それらは決して不変でも絶対でもない。と知らされました。

お寺としても、何をしていたのか、また何をしたらいけないのか、法を伝える場を失い、困惑の四ヶ月でした。

春の彼岸法要・永代経法要・住職継職法要と続けて中止延期をさせてもらいましたが、お盆法要はお勤めさせていただきます。と、思っています。

非常事態宣言も、自粛要請も解かれたとはいえ、まだまだ予断を許さない中での開催です。法要は時間を短縮して、それぞれ一時間程のお勤めになります。

今後の月例法座の再開はもう少し様子を見させていただいて、改めてご案内を申し上げます。

「ありがたい」とは、有ることが難しいと書きます。無事であること、平和であることの有り難さを、あらためて知らされた、この四ヶ月でした。

仏言

◆ たったそれほどの親切もできずに、どうして人生を大切に生きていると言えましようか。

◆ それくらい辛抱も努力もできずに、どうして人生を深く目つ遠く生きる願えましようか。

◆ 欲望のままに、我がままいっぱい生きていて、どうして自己を大切にしていると言えましようか。

◆ 他の人の生命を大切にできずに、どうして自分の生命を大切にできると言えましようか。

こんな仏様の言葉を聞いて、毎日、仏さまに向き合った生活をするところ、念仏者の道があるのであろう。

親鸞聖人は、そこに映し出された

自らの姿を「虚仮不実のわが身に清浄の心もさらになし」と見つめておられたにちがいない。



パソコンの中に、前任職の未使用原稿のフォルダがありました。二十年程前のものですが掲載します。

『聞く耳』



お経はどのお経もみんな「如是我聞」で始まる。そして、千二百五十人あるいは二千五百人の聴衆と共に聞いたとある。しかも、そのお弟子たちが「わたしもそのように聞いた」、「われもそのように聞いた」と、みんなが同じように聞いたというのである。それを「如是我聞」という。

当時はテープレコーダがあるわけでもないのに、仏さまの長い話をみんながもらさずその通りに聞いたというのであるから驚きである。

仏さまの耳は肩につくほど大きい。それは、仏教は聞くことの大切さを教えるものだからであろう。お弟子たちの耳も「聞く耳」が肥えていたに違いない。私たちは今日、見ることに偏って、聞く力が極端に痩せ衰えているのではないか。テレビもない、ラジオだけの時代の方が聞く耳も、想像力も豊かであったように思う。

ムカツイたりキレたりしやすいのも聞く耳が痩せてしまったせいであろう。聖徳太子は一度に十人のひとの話をお聞きになられたと言うが、それはどんな意味だろうか。

日本には「耳をすます」という言い方があるが、欧米にはそんな言葉はないという。彼らは「耳を凝らす」とか「耳を傾ける」というらしい。

聖徳太子の話が分からなくなったのも、現代人がすまして聞く耳を持たなくなってきたからかもしれない。